

原発ゼロ

Ⓣ

決めたドイツ

ドイツでの原子力発電に代わるエネルギーをめぐる議論について、緑の党のハンス・ヨーゼフ・フェル連邦議員（エネルギー広報担当）に聞きました。
（ハンメルブルク 小玉純一 写真も）

緑の党連邦議会議員に聞く

原発を続けたい人たちは再生可能エネルギーについて、「コストが高い、普及が遅い、輸入電力に頼ることになる」などと言ってきました。



ハンス・ヨーゼフ・フェル議員

例えば1995年に彼らは、再生可能エネルギーが政権が10年前、10年までに12%にするという目標を立てると、彼らは「非現実的」と言いました。しかし現実には、その年に17%となりました。再生可能エネルギーは彼らの予測を超えて普及しているのです。

再生可能エネこそ現実的

こうしたもて、かつて同じだった電力の輸出量と輸入量が、年間総量で輸出が大きく上回るようになっていきます。

ドイツでは、天候状況で風力による発電量が小さくなる時期に、フランスから電力を輸入する場合があります。逆にフランスは夏場に電力が不足するため、ドイツは風力発電による電力を輸出しています。

隣国チェコはすでに電力をドイツに輸出していますが、今後、原発による電力をドイツに輸出したいようです。しかし私は先日、チェコに行った際、「ドイツではすべての政党が原発による電力を輸入しない方針だ」と伝えました。

メルケル政権は22年までに原発を全廃することと、20年までに電力生産の35

％を再生可能エネルギーで賄うことを決めました。各州の見通しを合計すると58％になります。

現在、再生可能エネルギーが原発8基分の電力を生産しています。私たちは今後対策をとれば17年には原発無しで電力需要を賄えると主張しています。

再生可能エネルギーの導入には当然、コストがかかりますが、風力と太陽光・熱には燃料代がかかりません。従来型のエネルギーでは燃料を買って続けなくてはなりません。

さらに原発は安全の問題が避けられません。事故を起こした東京電力は自力で賠償できない規模の損害を出しました。そういう原発を続けようとする人たちが、再生可能エネルギーのコストをうんぬんするのは筋違いでしょう。

（おわり）